

## 関連学会印象記

# 第64回 FIP 国際薬剤師・薬学会議

廣谷 芳彦\*

国際薬学連合(The International Pharmaceutical Federation: FIP)が主催する第64回 FIP 国際薬剤師・薬学会議(World Congress of Pharmacy and Pharmaceutical Sciences 2004)が本年9月4~9日にニューオーリンズにて開催された。

FIP ニューオーリンズ大会では、世界95カ国から2,000名以上の薬剤師・薬学関係者が参加した。会議直前の6月に京都において FIP Pharmaceutical Sciences World Congress が開催されたので、本会議のプログラムは薬剤師業務に重点を置いた大会であった。今回のメインテーマは The Patient and the Pharmacist—The Heart of the New Healthcare Team であり、会議全体で、45のシンポジウムおよび150の口頭発表と252ポスター発表が行われた。他に、HIV/AIDS 危機に関する特別のシンポジウムと反喫煙薬剤師グローバルネットワークの会議も行われた。大会プログラムとしては、開会式が9月5日、ポスターセッションは6~9日の4日間を2日ずつに分けられ、併行してシンポジウムが Board of Pharmaceutical Sciences (BPS) と Board of Pharmaceutical Practice (BPP) の2つのセッションに分かれて開催された。

BPS では、5つの Special Interest Groups がそれぞれの科学的な関心を話し合う会議プログラムを用意された。

1. 生体薬物利用率/生物学的同等性 (Bio-availability/Bioequivalence), 2. 核/放射薬学 (Nuclear/Radiology Pharmacy), 3. 薬剤学的バイオテクノロジー (Pharmaceuticals Biotechnology), 4. 薬剤経済学/薬剤疫学 (Pharmacoeconomics/Pharmacoepidemiology), 5. 薬剤品質 (Quality of Pharmaceuticals)

次に、BPP では若手薬剤師および学生のための

プログラムと各実践分野の9つの部会が置かれている。

1. 学術部会 (Academic Pharmacy Section), 2. 薬剤管理部会 (Administrative Pharmacy Section), 3. 臨床生物学部会 (Clinical Biology Section), 4. 調剤薬局部会 (Community Pharmacy Section), 5. 病院薬学部会 (Hospital Pharmacy Section), 6. 工業薬学部会 (Industrial Pharmacy Section), 7. 検査および医療薬学部会 (Laboratories and Medicines Pharmacy Section), 8. 軍事および緊急薬学部会 (Military and Emergency Pharmacy Section), 9. 薬剤情報部会 (Pharmacy Information Section)

今回のメインテーマ関連の専門プログラムに用意されたシンポジウムのテーマは、

1. New drug therapies and the impact on the patient/pharmacist partnership  
2. The patient and the pharmacist in different healthcare systems  
3. Patients and pharmacists working with new technologies  
4. The increasingly knowledgeable patient  
5. The changing role of the pharmacist in medicines management  
の5つであった。

ポスター発表では、病院薬学部門では SARS を含む Taiwan からの報告が際立って多く見られた。循環器系関連発表の中で興味深かった演題を紹介すると、347名の慢性糸球体腎炎患者に対してアンギオテンシン変換酵素阻害薬 (ACEIs), アンギオテンシン II 受容体拮抗薬 (ARBs) とその他の抗高血圧薬の効果を腎不全への進行と腎透析の移行時期で比較すると、前二者に有意に効果の差が見られ、特に ARBs が最も腎保護作用が強くと発表された報告があった。次に、冠状動脈バイパ

\*大阪薬科大学臨床薬剤学教室

ス移植片手術(CABG)後高コレステロール血症を併発した患者(n=33)にアスピリン(100mg/day)とアトルバスタチン(10mg/day)を併用投与するとアスピリン単独よりも、P-selectinやTBX2の血中レベルなどの血小板機能の指標では術後7, 14, 28で血栓形成保護に有用であるとした報告もあった。他に、アミオダロン(AMD)とメトプロロール(MET)を併用した76例の不整脈患者を対象にした光学異性体別のMETに対するAMDの薬物動態への影響を調べた発表では、薬理効果の強いMETのS体に単独よりも高い血中濃度となり、薬物動態に強く影響を与え併用する際には投与量を減らす必要があるとした報告も見られた。

私は、今回専門外であるが薬剤経済学/薬剤疫学区分のポスターに発表した。本紙面をお借りして紹介させていただく。テーマは、「A survey and analysis on the status of dispensation of generic drugs by hospital pharmacists」で、近畿地区の病院薬剤師対象に、後発医薬品について採用状況に関するアンケートを行った結果を発表した。先発品と比較し薬価が約半分で、特許が切れている後発医薬品の活用は病院経営と患者にメリットがあるが、日本ではその使用量は品目数で約10%と50%の欧米先進国に比較し少ない。この理由は、薬剤師が供給・薬剤情報・品質(先発品との同等性)に依然問題があると考えている薬剤師が多いからである。しかし今後は、包括医療と医療財源などを考える

と後発医薬品をさらに採用をせざるをえない時がくるかもしれない。

今回の大会では、大会直前にテロの可能性の報道があったせいか日本人の参加者は例年(開催国に近い人数が参加する)と比較が少ないようであった。また、大会終了(帰国)時期が9月11日(2001年のテロ)と重なるのも嫌った可能性もある。また、大会中も隣接のフロリダ州で大型のハリケーンがきており被害の放送が流れていたが、この一週間後では開催地のニューオーリンズが大型のハリケーンの接近で観光者を除く住民が避難し閑散とした町並みが報道されていた。この大会は私には初めての参加であるが、シンポジウムにかなりの時間と数を用意されており発表では活発な議論が行われていたが、最新の情報を発表する大会よりも世界の薬剤師を取り巻く環境と薬剤師の進むべき方向性を知る大会であるような印象を受けた。日本と同様女性の割合が多いように見えた。一方、学会の合間に旧市街地区(フレンチクォータ)を観光見物したが、観光客が多いのに驚いた。ジャズ発祥の地で、音楽が街に溢れているとても魅力的な街で、通りを歩いているといたるところで音楽が流れていた。夜のミシシッピ川の船上ディナーツアーでも楽しいひと時をもつことができ、すばらしい風景、食事そして音楽のクルーズであった(是非お勧めします)。次回の65回は2005年9月カイロで開催される予定である。

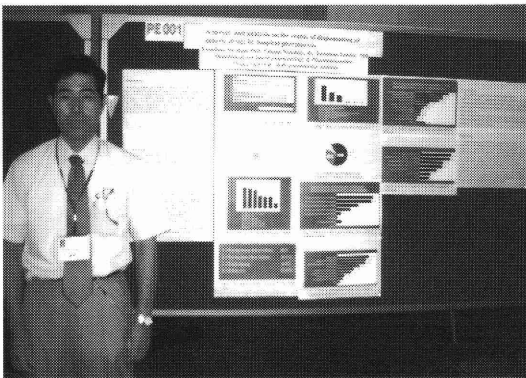


写真1



写真2